



©c

Japan Boxing Commission

Tokyo Dome 1-3-61 Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

Tel: 813-3816-5761 Fax: 813-3816-5761

2025年6月3日

告示

TEAM 10COUNT ジムからの抗議文、再要望に関する回答は以下の通りです。

記

1 対象試合 2025年5月6日 神戸市立中央体育館
守随あゆみ (TEAM 10COUNT) 対 吉田 里穂 (真正) 6回戦

2 抗議内容 レフェリーストップについて

3 検証

(1) 検証方法

当該試合に参加したレフェリーを含む試合役員からの報告ならびに抗議文、試合映像などを参考に試合役員、JBC 事務局員 (計 15 名) により検証を実施した。

(2) 検証結果

ア ストップのタイミング

当日の報告書、ビデオ検証から、ストップのタイミングについては、女子の試合を考慮しても早いと感じたとの意見が大勢であった。

一方、5ラウンドから守随選手がやや消極的になり、6ラウンドに今までなかったパンチの被弾がみられた。また守随選手がホールドをし、顔をしかめるようなシーンもあり、これらのことがレフェリーのとっさのストップの判断の要因となったのではないかと意見もあった。

また、レフェリーの立場からの意見は、確かに早いストップにも見えるが、あくまで当該レフェリーの判断を尊重するもので一致した。

イ 試合運営について

試合の結果がコールされる前後の説明不足により、観客を含め場内に不安感、不

信感が醸成されたことは否めない。

今後はスーパーバイザーや担当ジャッジによる迅速、適切な助言などにより、場内に対し説得力のある対応ができるよう徹底する。早急にスーパーバイザーの権限、責任による場内アナウンス等の実施プロトコルを作成する。

4 結論

(1) ノーコンテストの可否

ビデオ裁定を採用していない以上、原則として担当役員のその場での判断を尊重しなければこのスポーツは成り立たない。もちろんレフェリーはすべての試合において公平にジャッジすべきである、他の試合に比して著しく早いストップが容認されるものではないことは言うまでもない。当該レフェリーは女子の試合の意識が強すぎ、過度に健康管理に留意した結果、結果的に見れば大きなダメージとは言えない被弾により試合をストップしたと思われる。

とはいえ前述したように、ビデオ裁定を採用していない現状においてはレフェリーのその現場での判断は尊重されるべきであり、この点レフェリーがいわゆる地元選手に有利な裁定をあえてしたとも考えられない。

さらに、レフェリーストップはレフェリーがその経験においてこれ以上の被弾が選手にとって健康管理上危険であると判断した場合になされるもので、このタイミングでなければならないという客観的な基準を設けにくい判断となる。それゆえ JBC は過去、裁定をノーコンテストに変更したことはあるが、レフェリーストップのタイミングについての変更はなく、今回のケースがノーコンテストに変更すべきものとまでは評価できないと考える。

以上より当該試合をノーコンテストとすることは妥当でない。

(2) 再戦指令

当該試合をノーコンテストとはできないものの、ストップのタイミングに疑義があることは否定できない。したがって、JBC は再戦指令を両陣営に要請する。

また、ランキング上不利益のないように配慮する

再戦が実施されるにあたっては、実際の試合開始に際して、本部事務局長より観客等に対し、再戦の趣旨等説明を実施する。

(3) 再発防止策

ア 当該レフェリーに対し、厳重注意を与えるとともに、他地区（特に東日本）での試合の担当機会を付与しレフェリング技術の研鑽を行わせる。

イ 試合役員会を開催し（6月28日予定）、基本的なストップのタイミング、女子ボクシングと男子ボクシングの違いについて等の理解を深める。特に女子ボクシングにおけるストップのタイミングに関してある程度明確な基準を設ける。

ウ 運営においては、観客などが不信感や疑問をもつ裁定が試合役員よりなされた場合、可能な限りスーパーバイザーにより場内で説明を与える機会を設けるプロト

コルを作成する。

- エ 将来的にビデオ裁定システムを導入する。ビデオ裁定システムに関してはすでにルールはあるものの世界タイトルのみの実施に留まっており、今後早い段階でテストケースを一般の試合に導入する。
- オ 再戦にあたり、可能な限りビデオ裁定システムを試験的に導入する。

以上

今回の件において両選手並びに関係者へ不信感、不安感を与えたことに関し陳謝しますとともに、真摯に向き合い今後このような事態を招かないよう、事務局、試合役員会一丸となり問題の解決、再発防止への取り組みを行ってまいります。

2025年6月3日

一般財団法人日本ボクシングコミッション

執行理事 安河内 剛